

滋賀工場は比叡山の麓、琵琶湖の畔、恵まれた環境の中、化学技術をベースにユニークなエレクトロニクス素材を開発・生産しています。私たちは、自然環境にやさしい工場をめざすとともに、常に安全を確保し、地域社会のと共生に努めています。

1. 環境方針

1998年ISO14001を認証取得して3年、継続的な環境改善を図ってきており、2001年4月環境方針をブラッシュアップして改訂しました。

鐘淵化学工業株式会社 滋賀工場 環境方針

滋賀工場は「安全・環境保全是己の・工場の基盤である。工場の生産活動は環境との共生なしには成り立たない。」との基本方針と琵琶湖への隣接及び住宅地域に近接している現状を鑑み、地球環境の保護と近隣地域への環境保全是重要と認識し、当工場における電子部品・材料の生産・技術開発にともなう全ての活動が及ぼす環境への影響を少なくするための施策を推進します。

1. 当工場の活動・製品及びサービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的及び目標を定め、環境改善活動を全員で取り組み、継続的改善を図ります。
2. 環境関連法令及び地域との協定を含めたその他要求事項を遵守します。
さらに必要に応じて自主管理基準を設定し、環境保全・改善に努めます。
3. 活動・製品及びサービスに係わる環境側面のうち、次の項目を重点に環境保全・改善活動に取り組みます。
 - ①廃棄物発生量の削減、廃棄物の有効利用及びリサイクル等資源生産性の向上に努めます。
 - ②地球温暖化防止を考慮し、省エネルギーに取り組みます。
 - ③製造工程から発生する有機溶剤の大気環境への排出濃度、排出量の削減に取り組みます。
 - ④琵琶湖への排水については水質汚濁に関連する法令及び地域との協定に定める物質について、排出濃度及び汚濁負荷量等の基準を遵守するとともに削減に努めます。
 - ⑤環境にやさしい技術の開発に取り組み、環境負荷低減型の製品作りを進めます。
 - ⑥従業員の環境意識の高揚に努めるとともに、地域社会奉仕として琵琶湖岸清掃活動等への参画を行い社会に貢献します。
4. 環境方針は、工場・関連協力会社を含む全従業員に周知するとともに、工場内広報活動及び環境教育を実施し、環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境方針並びに環境目的及び目標は定期的に見直し、必要に応じて改訂します。

～この環境方針は外部からの要求に応じて提供します～

2001年 4月 1日
鐘淵化学工業株式会社滋賀工場

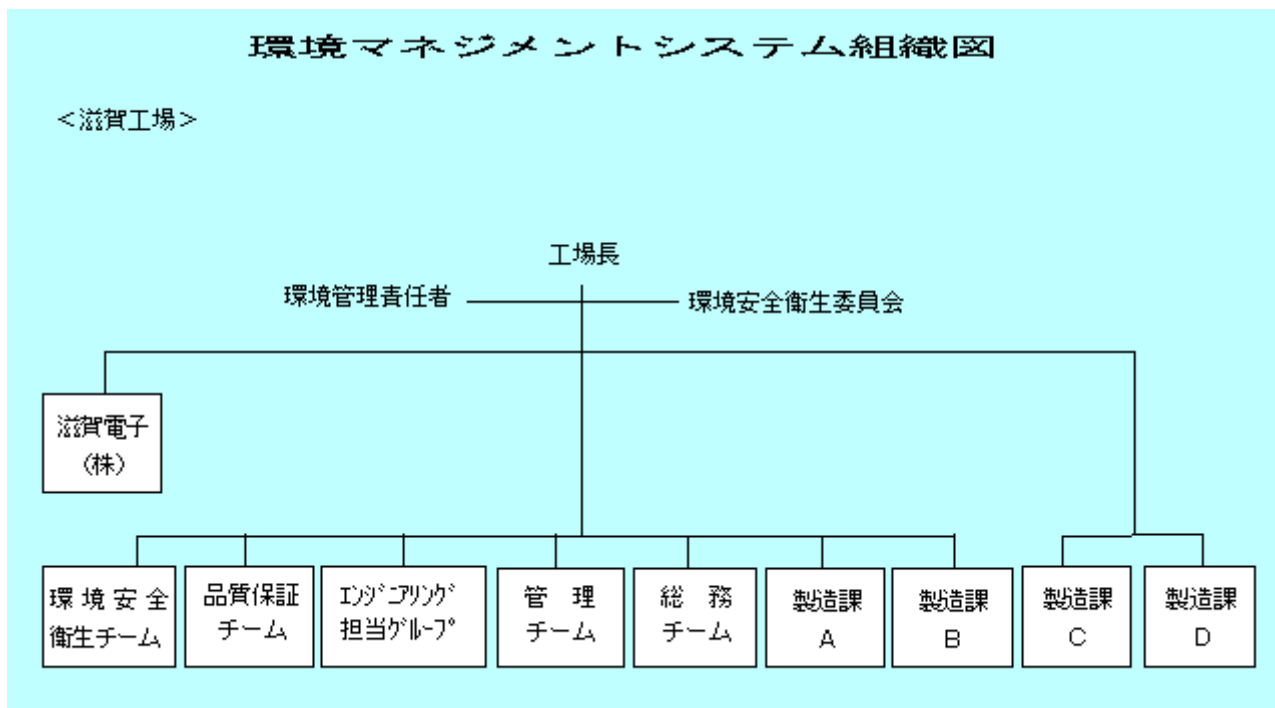
工場長 山崎 薫



文書番号 SKK-PKZ002/02

2. 組織

環境マネジメントシステムを効果的、効率的に推進するための「環境マネジメントシステム組織」により活動を行っています。



3. 環境目的・目標及び達成状況

環境保全を継続的に向上させるため、環境マネジメントシステムにより年度毎に環境目的・目標を定め、取り組んでいます。

2000年度の環境目的・目標及び達成状況は次の通りです。

2000年度 環境目的・目標及び達成状況		
環境目標	計画	達成状況
電材製造工程からの排出する有機溶剤の総量を抑制する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機溶剤を使用した洗浄工程の一部を、溶剤を使用しない工程への改善、又は外部委託する検討を進める。 2. 関係会社の製造設備が稼動するのを受けて、総排出量の再調査を行い、処理設備の方式検討に反映させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術検討により、工程改善の目途がついたため、コスト面での検討を開始した。 2. 関係会社の製造設備が稼動し、総排出量が半減したため、排ガス処理設備設置計画の修正を進めている。
産業廃棄物の減少、再利用に取り組み、廃棄量(埋立、焼却)の減少を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ELM廃棄フィルムを再資源化するための調査、検討を行う。 2. PI廃棄フィルムを再資源化するための調査、検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大型廃棄フィルムは再資源化を実現し、2001年1月より売却を開始した。 2. 減容化によりコスト削減を行うとともに、再資源化の調査を継続する。
事務用紙の使用量削減とリサイクル及び生活系再資源化物(ボトル、ビン、缶類)のリサイクルに努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務用紙の使用量削減とリサイクル及び生活系再資源化物(ボトル、ビン、缶類)リサイクルの取組みを継続して実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務用紙の削減は電子メールの利用、両面コピーの活用を継続して実施した。事務用紙リサイクル率は69%と安定、生活系資源物は80m3を回収した。
従業員の環境保全意識の醸成のため、工場周辺の琵琶湖岸を清掃しゴミの回収を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工場周辺の琵琶湖岸の清掃活動を年4回実施しゴミの回収を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年4回(6月、7月、9月、12月)実施。参加者延人数95名、回収ゴミ計640kg。

4. 監視・測定

環境に著しい環境影響を及ぼす可能性がある運用、活動のかぎとなる特性を定常的に監視するため、大気、水質汚染物質の排出量、及び騒音・振動の定期的な監視・測定を行い、問題のないことを確認しています。

2000年度の監視・測定結果は次の通りです。

〔大気〕

施設名	測定物質	規制値	測定位置	測定結果					
				2000年度			1999年度		
				01/01月	00/07月	判定	00/01月	99/07月	判定
ボイラー	SOx	K=8.76以下	排出口	0.100	0.099	○	0.103	0.104	○
	NOx	180ppm以下	排出口	60	46	○	81	74	○
	ばいじん	0.2g/m ³ 以下	排出口	0.008	0.008	○	0.019	0.003	○
ガスタービン	SOx	K=8.76以下	排出口	0.490	0.582	○	0.327	0.326	○
	NOx	180ppm以下	排出口	121	116	○	140	143	○
	ばいじん	0.2g/m ³ 以下	排出口	0.040	0.011	○	0.003	0.006	○
乾燥炉	NOx	230ppm以下	排出口	15	45	○	33	34	○

〈測定頻度〉1. ボイラー、ガスタービンのSOxは1回/2ヶ月、測定結果は平均値。

2. その他は1回/6ヶ月、測定結果は平均値。

〈判定〉○印は測定結果が自主管理値を以内であることを示す。

〔水質〕

施設名	測定物質	規制値	測定位置	測定結果					
				2000年度			1999年度		
				下期	上期	判定	下期	上期	判定
総合排水口	pH	6.0~8.5	排水口	6.9~7.7	6.9~7.7	○	6.6~7.7	6.8~7.8	○
	BOD	20mg/l以下	排水口	ND~5.0	1.2~7.1	○	ND~12.0	ND~3.6	○
	COD	20mg/l以下	排水口	2.7~3.9	2.6~4.8	○	2.5~6.5	2.7~5.2	○
	SS	70mg/l以下	排水口	ND~6.0	ND~3.6	○	ND~4.0	ND~5.2	○
	油分	5mg/l以下	排水口	ND~3.3	ND~1.8	○	ND~1.2	ND~2.4	○
	全窒素	8mg/l以下	排水口	0.9~1.8	0.8~1.7	○	0.6~2.7	0.6~1.2	○
	全りん	0.8mg/l以下	排水口	ND	ND	○	ND	ND	○
	フェノール	1mg/l以下	排水口	ND~0.5	ND	○	ND	ND	○
	銅	1mg/l以下	排水口	ND~0.03	ND	○	ND~0.02	ND	○
	鉛	0.1mg/l以下	排水口	ND	ND	○	ND	ND	○
塩化メチレン	0.2mg/l以下	排水口	0.001~0.019	0.002~0.008	○	0.006~0.015	0.001~0.020	○	

〈測定頻度〉1. 一般項目(pH、BOD、COD、SS、油分)は週1回。

2. 全窒素、全りん、フェノール、銅、鉛、塩化メチレンは1回/1ヶ月。

〈判定〉○印は測定結果が自主管理値を以内であることを示す。

〔騒音・振動〕

施設名	測定物質	規制値	測定位置	測定結果					
				2000年度			1999年度		
				下期	上期	判定	下期	上期	判定
敷地境界	騒音	65/70/60以下	敷地境界 8点	55~60	55~60	○	55~60	50~60	○
	振動	65/60以下	敷地境界 4点	40以下	40以下	○	40以下	40以下	○

〈測定頻度〉2回/年。

〈判定〉○印は測定結果が自主管理値を以内であることを示す。

6. 教育、啓発活動

教育啓発活動は、環境マネジメントシステムを運用していく上で重要な位置を占めています。工場の環境目的・目標にも“従業員の環境保全意識の醸成”を上げ、活動を展開しています。

●工場周辺の琵琶湖岸の清掃活動

年間4回の清掃活動を行い、幹部職を含め全員が参加し、環境保全意識を啓発しました。
(現場交替要員を除く)



●事務用紙の使用量削減とリサイクル

事務用紙のリサイクルに取り組んで3年が経過し、2000年度もリサイクル率69%に達しています。



●工場総合防災訓練

琵琶湖と接した工場の特徴を鑑み、万一の災害時でも油等の琵琶湖への流出を防止するため定期的に総合防災訓練を実施しています。



●環境マネジメントシステム教育

全従業員に対してISO14001規格の要求内容に沿った計画的な教育・訓練を行い、その効果を経年的に把握しています。



7. 地域社会貢献活動

滋賀工場では環境方針でも定める通り、近隣地域への環境保全、コミュニケーションを重要な課題と認識し、ISO14001認証取得以前からレスポンシブル・ケア（責任ある配慮）実行計画の中で活動を継続しています。

- 大津市と環境保全協定の締結(11月) 昨年11月、自主的な環境保全の計画的な推進を内容とした大津市との環境保全協定を締結しました。環境マネジメントシステムを確実に実行し、協定の精神に沿った運用を実施しています。



- JR比叡山坂本駅前に最澄像寄贈(12月) 当社創立50周年の記念事業として、JR比叡山坂本駅前広場に若き日の最澄像を寄贈し、利用者・地域住民にいきいの一とときを提供しています。



- 納涼祭の開催(8月) 夏のひととき、納涼祭を開催し地域の人たちとともにふれあいの場を提供しました。特に本年は地元FMラジオ局の生中継があり、500人を超える方々が集まり、盛大な開催となりました。



- 地元小学校の工場見学(6月) 地域の方々に企業活動を広く理解して貰う一環として、地元小学校の工場見学を受け入れています。



8. 廃棄物

工場から発生する産業廃棄物・事業系一般廃棄物は、工程内リサイクル・再資源化委託を進め一部プラスチックのリサイクル、溶剤の工程内リサイクルを実現しました。

産業廃棄物の委託処理は環境マネジメントシステムにより、現地確認の実施・マニフェスト管理を総ての廃棄物に対して実施しています。

今後更に、工程内リサイクル・再資源化に向けた取り組みを進めていきます。

2000年度の産業廃棄物処理状況は次の通りです。

産業廃棄物処理状況(2000年度)

種 類	発 生 量	中 間 処 理	最 終 処 分
廃プラスチック	984ton	破碎、選別 焼却 中和	再資源化 240 ton
廃油			埋立処分 212 ton
廃酸、廃アルカリ			
ガラス屑			
金属屑			
焼却残さ			
その他			

9. 化学物質管理

●MSDS(マテリアル・データ・シート)

化学物質による災害を未然に防止するために、工場で使用・取り扱う及び出荷する総ての化学物質に対してMSDS(化学物質の安全データシート)を整備しています。

又、工場から出荷する漏洩・火災爆発の可能性のある化学物質についてはイエローカードの携行を義務付けています。

様式例

平成 年 月 日作成

製品安全データシート (MSDS)

会社名 _____
 住所 _____
 担当部署 _____
 担当者 _____
 連絡先(TEL) _____ Fax _____
 緊急連絡先(TEL) _____

製品名				
物質の特定	化学名 成分及び含有量 化学式及び構造式 官能基の記号(化学式、実験式) CAS No. 国産分離及び番号			
危険有害性の分類	分類の名称 危険性 有害性 環境影響			
禁忌措置	目に入った場合 皮膚に付着した場合 吸入した場合 飲み込んだ場合			
火災時の措置	消火方法 消火剤			
漏洩時の措置				
取扱い及び保管	取扱い 保管			
暴露防止措置	管理濃度 許容濃度 暴露対策 保護具			
物理・化学的性質	外観	沸点	融点	揮発性
	性状	比重	初沸点	溶解度
	その他			
危険性情報	引火点	燃焼点	腐食限界	酸化性
	自燃性	燃焼性	その他	
有害性情報	皮膚腐食性	刺激性	感作性	急性毒性
	金属性毒性	慢性毒性	がん原性	生殖毒性
	生態毒性	遺伝毒性	その他	環境毒性
環境影響情報	分解性	蓄積性	毒性性	その他
廃棄上の注意				
輸送上の注意				
適用法令				
その他				

様式-1/00

排出量調査表

化学物質名: _____ (CAS No. _____)
 算定期間: _____年 月 ~ _____年 月

取扱量(購入量) _____ ton/年

排出源	排出量	算定方法
(1) 大気への排出		
① 煙突・自然		
② 貯蔵・取扱い		
③ 逸散性		
④ 流出		
⑤ その他		
	(小計)	
(2) 表流水への排出		
① 排出設備		
② 流出		
③ その他		
	(小計)	
(3) 土壌への排出		
① 埋立て		
② 流出・漏れ		
③ その他		
	(小計)	
	合計	
(4) 消費量(製品、副生成物)		
(5) 除去処理量		
① 場内焼却		
② 分解・反応処理		
③ その他		
(B) 場外排出量(廃棄物)		
①		
②		
	合計	

環境部単位: 排出量 / _____ = _____

部署長	部長	作成者	作成年月日	年 月 日

809-M-0333/00

●PRTR

化学物質の環境への排出量を把握するため、PRTR(環境汚染物質の排出及び移動量の登録)を手順書に定め、実施しています。

2000年度は、法律に定められた対象化学物質のうち工場で行き扱う6物質について実施しました。

10. 環境保全コスト

環境保全コストは、環境保全活動の妥当性を把握評価するために環境保全対策に掛かる費用を算出するもので、継続的で効果的な環境改善を進めていく上で、このコストを把握することは重要な指標と考えています。

2000年度は、準備期間として算出方法の検討を行いました。近い将来に「環境保全コスト」を公表し、更に収支バランスまで精査できる環境会計へ移行させていきます。

問い合わせ先

鐘淵化学工業株式会社 滋賀工場
〒520-0104
滋賀県大津市比叡辻2丁目1-1
環境安全衛生チーム
TEL 077-577-2100
FAX 077-577-2115